

「定量性」営業のトライアル 議論に終わらない遊技環境を

遊技機委員会委員長 内藤裕人



今回は一年ぶりの登板となり、
すので、委員会の活動、業界団体
を超えた活動などの報告と方針を
お伝えしたいと思います。
去る4月25・26・27日に
開催された「パチンコ&
パチスロフェスタ201
4」は設営準備の24日も
含め、協賛企業、後援を
頂いた団体、及び会員企
業各位の多大なるご協力
を頂き盛況のうちに無事
開催できたことをこの場
をお借りして厚く御礼申

内藤 裕人
遊技機委員会委員長



「フェスタ」で座談会に出席した内藤裕人委員長（中央）

し上げます。今回は、前回に準ず
る形でメイン会場は「ベルサール
秋葉原」。25日は業界関係者向け
26日は一般ファン向けの内容で開
催し、新たな取り組みとして26日、
27日の2日間、幕張メッセで開催
された「ニコニコ超会議3」へブ
ース出展という形でサテライト会
場を設けました。メイン会場で25
日に開催された「遊技機アワード
2014」、各種セミナー等も含
め、詳細は日遊協広報誌5月号の
巻頭で報告されておりですので、
バックナンバーをご覧くださいだけ
ばと思います。

また、昨年7月より全日遊連、
日工組、日遊協の三団体で「現行
遊技機検討会」で遊べる遊技機の
性能に関する再定義に関して議論

を重ねており、その発展形として
パチンコ・パチスロ産業21世紀会
に設置された「遊技
産業活性化委員会」
のワーキンググルー
プへ提言できる内容
を本年度の委員会で
議論を深めて行きた
いと考えております。
次回以降の「パチン
コ&パチスロフェス
タ」はその内容をユ
ーザーへ伝える場へ
とつなげて行ければ、
効果もより大きなものになると考
えます。そのためには、日遊協内
においても支部、各委員会、PT
も含めた連携を深めることを目指
して行きたいと思えます。

さて、業界団体の活動や議論も
含め閉塞感や課題を多くの関係者
が唱えておりますが、具体的に打
破する取り組みを自社においても
何か出来ないのだろうかと思いが
募る中、この広報誌が発行される
頃には営業が開始されていると思
いますが、消費税増税後の環境変
化を活用し「定量性(打ち止め)」営
業のトライアルを行います。遊べ
る遊技環境の受け皿として拡大し

ていった低貸玉営業ではありません
が、これ以上の発展は見込めない
現状は明らかであ
り、現在貯玉の相
互乗り入れ議論は
進んでいるものの、
1円パチンコの出
玉は4円パチンコ
へそのまま持ち込
むことはできませ
ん。かつて私たち
がパチンコ・パチ
スロを始めた当時
に戻ることは出来
なくとも、当時は4円パチンコの
みの環境下でも羽根モノを打ち止
めし、次にフィーバー機やその他
の機種へと育っていったフロアを
現環境下でなんとか実現できない
ものかというチャレンジです。か
つては「手軽に」「安く」「遊べる」
といったキーワードを遊技機の性
能だけでなく、遊技環境でカバ
ーすることを併せて行っていました。
競争、利益といったユーザー不在
の横並びの環境で、理想論や過去
の思い出話で終わるのではなく、
真の安心安全な遊技環境創造に向
けた委員会活動や企業、個人であ
りたいと思う今日この頃です。

